

**放課後等ディサービス事業所における自己評価結果（公表）**

公表：令和 7年 3月 25日

事業所名

放課後等ディサービス

れんと

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	60%	40%	0%	利用人数や活動内容によって、室内を分けたり広くしたり、パーテイションを利用するなどの工夫をしている。 学習室とプレイルームで分けなければいけない場合、人数によってはプレイルームが狭い。 活動に支障はないが、逆に部屋を分けることが難しい。	職員同士話し合いスペースの確保を考えている。現状の中で、実施できそうな案を取り入れ実行していく。
	2	職員の配置数は適切である	80%	20%	0%	送迎の出入りを考えると適切とは言えないところがある。	配置数としては適正である。 職員への説明を丁寧に行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	40%	0%	60%	階段などの配慮が難しい。 手すりはついているが、配慮が少ない。 屋内には段差がほとんどない。	バリアフリーにはなっていないが、職員から危険な場所について会議で報告や検討が行われている。出た内容に可能な限り対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	80%	20%	0%	月1回の会議で振り返りを実施している。改善策があれば、提案し全員で意見交換を行い方向性を決めている。 会議で都度行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%	0%	保護者意向については、優先して検討し、何かしらの対応を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	40%	20%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	20%	60%	20%	それぞれの職員に必要と思われる研修に各々参加できることができている。 呼びかけはあるが、確保とまではきていないと思う。 偏りがある。	業務の見直しを行い、研修時間の確保を実施していく。 スペシャルラーニングの活用を更に進めしていく。

	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	職員間で情報交換をしながら作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	40%	0%	60%		職員間で話し合い作成する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	毎月1回活動案打合せの時間を設け、全員で内容の検討を行っている。 常勤スタッフから考案してもらっている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	毎月新しい内容を入れることを心掛けている。 季節に合った活動を提案したり、週ごと曜日ごとに活動スケジュールを検討している。	
適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	0%	個別、要望、課題点に合わせて提供している。 それぞれの利用者に合った課題が提供できるように既存の課題の活用の他に、新しい課題を不定期で作成している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	毎日実施している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	60%	20%	20%	良かった点、改善点があれば話し合い、次の支援に繋げている。 終了後は難しいため、翌日に行っている。	現在の振り返りの状況のままでよいのか、職員間で考え実施していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	毎日実施している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	0%	全職員で見直しし、支援に反映しています。 半年毎にケース会議を行い、検討しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	40%	60%	0%	全員がガイドラインを熟読はできていない。	ガイドラインの研修を取り入れていく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	0%	学校や各家庭との連絡・情報共有を送迎時に話しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	40%	40%	対象の利用者がいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	40%	40%	20%		移行の時期には連携を密にして、より良い支援に繋がるよう積極的に情報共有していく。 職員間で周知していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	60%	20%	20%	移行先の事業所と、支援内容など情報を共有、提供しています。 次の放デイへ移行する際に、情報の提供を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	20%	60%	20%		専門機関との連携を更に密にして、支援に活かしていく。 職員間で周知していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がない子どもと活動する機会がある	40%	20%	40%	公園や屋内広場など、外出先で交流することがある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	40%	20%	40%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持つている	100%	0%	0%	日々の、連絡帳や送迎時の申し込み送りを通して利用者の状況を共有している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	40%	40%		職員が研修を受け、保護者支援に活かす。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80%	20%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	20%	0%	保護者からの相談に応じ、その内容を職員間でも共有することで、共通した支援の実施に繋げている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20%	40%	40%	合同交流会などを企画し、保護者同士の交流の場を設けている。 児童全体で、年1回交流できる機会を作っているが、事業所単位でも考えて行く。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	80%	20%	0%	苦情・要望については早急に情報共有や話し合いの場を設け、迅速な対応を実践している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	月を決め発行している。 毎月の活動予定表や広報、写真など を活用して、定期的にお伝えしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	各職員が個人情報の扱いに関して注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	職員間での情報共有に努めている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	20%	80%	昨今、感染症流行の現状を鑑みると現時点では難しいと考える。 地域とどのように関わっていくか検討していくたい。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	20%	40%	40%	今後周知の方法など検討していると聞いている。 保護者への周知ができているとは言い難い為、今後保護者向けの周知を徹底する必要がある。 作成されている各マニュアルを職員で共有する時間を作り、保護者への周知も進めていく。	

非常時等の対応	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	定期的に行い、保護者にも伝えている。 年に2回、地震と火災の避難訓練を活動として取り入れ実施している。 回数を増やし、全員が経験できるようにしている。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	スペシャルラーニングの活用。 虐待防止の研修にもれなく全員が参加できるように時間の調整を行っている。 毎年行っている。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	40%	60%	0%	事前に伝えることはしているが、計画には記載していない。	虐待については大変重要な内容のため、説明の実ではなく計画にも盛り込んでいく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	40%	60%	0%		食物アレルギーに関しての対応を見直していく。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	60%	40%	0%	毎日、昼礼などで共有している。 事案がある場合は昼礼で報告し、データ上でも記録を残している。	